

# ラフティング・ダウンリバーレース大会競技規則 ver.2

## 1. 競技種目

ダウンリバーコース（タイムトライアル方式）

コースー吉野川小歩危コース 堂床～白川口 約5km

※大会主催者の判断で、増水・天候などによりコースを変更、中止する場合がある。

## 2. 参加登録制度

- ・参加者1人当たり3,000円を大会主催者に収めること。  
ただし、6人を超える場合、補欠者は1人当たり1,000円とする。
- ・1チーム当たり6人までとする。  
※2008年ジャパンカップの成績対象チームは、R6男子、R6女子、R6オープンの3部門となる。また、ジャパンカップにエントリーするチームは、選手登録料を1選手につき年間1,000円をシーズン初参加となる大会の受付時まで日本ラフターズ協会に支払うこと。（詳細は2008年度ジャパンカップ規約参照）
- ・1チーム当たり2人までの補欠メンバー登録を認める。
- ・参加登録後のメンバー（補欠メンバーも含む）の追加・変更は、いかなる理由があっても認めない。また、選手登録にない者が出場した場合、そのチームは失格となる。
- ・参加登録している補欠メンバーと、大会期間中にメンバー変更ができる。ただし、競技の開始から終了までの間、メンバーの変更はできない。上記に反した場合は、そのチームは失格とする。
- ・各チームには必ず1人チームキャプテンがいること。チームキャプテンは、メンバーの安全確保に責任を持ち、大会期間中のキャプテンミーティングなどの大会主催者が指定する説明会には必ず出席し、スムーズな大会運営に協力すること。
- ・参加者は、競技期間中の行動を自己責任で行い、事故が生じた場合、大会主催者やチームメンバー、チームキャプテンにその責任を問わないこと。

## 3. ポイント規定

- ・順位に応じたポイントを付ける。
- ・ジャパンカップカテゴリー登録チームにおいては、大会リザルトと別に、ジャパンカップ規約に基づいたカテゴリー毎の順位を決める。

ーダウンリバー獲得ポイントー

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17以下
ポイント	40	32	24	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	5

#### 4. 装備規定

出場チームは、大会主催者による各装備の検艇、装備確認を受けることを義務づける。装備規定を満たさないチームには大会出場停止を勧告することがきる。また、止むえない事情による競技期間中のボート変更は、改めて検艇を受けることで認められる。

##### 【ボート】

- ・ ホワイトウォーター仕様の自動排水機能（セルフペイラー）を備えたラフティング用インフレーターボートに限る。
- ・ 全長 380cm 以上、幅 180cm 以上で、2 ないし 3 スウォートを搭載し、5 気室以上を有するボートを使用すること。
- ・ 規定に則ったボートが必要な場合、大会主催者管理のレンタルボート（有料）での出場も可能である。
- ・ すべてのボートはアウトサイドチューブにセーフティラインを装備しなければならない。
- ・ フットストラップの装着やロープによる予備パドルの固定、スローロープの固定は大会主催者、またはその代理人が安全性を点検し、認められれば可能とする。
- ・ 検艇後のボートの改造、変更は一切禁止する。該当したチームはただちに失格とする。

##### 【パドル】

- ・ T グリップのあるラフティング・カヌー用に設計されたシングルブレードパドルを使用すること。
- ・ 乗船している人数より最大 1 本までの予備パドルの携行を認める。

##### 【PFD】

ホワイトウォーターでのラフティング、カヌー用に設計された浮力が 7kg 以上ある PFD（パーソナルフローティングデバイス）を着用しなければならない。劣化が激しく浮力に問題があると大会主催者、またはその代理人が判断した PFD の使用は認められない。また、クイックリリース機能が装備された PFD の使用が望ましい。

##### 【ヘルメット】

ホワイトウォーターでのラフティング・カヌー用に設計されたヘルメットを着用しなければならない。

##### 【シューズ】

足を保護するシューズ、もしくはリバー用ブーツ、リバーサンダルなどを着用しなければならない。

##### 【スローバック】

チーム全体で最低 2 個以上のスローロープを携行すること。チーム全員が所持し、ボートにも余

分のスローバックを積載することが望ましい。

#### 【その他の装備】

- ・リバーナイフ：チーム全体で最低 2 本以上を所持していること。チーム全員が所持することが望ましい。
- ・フリップライン：チーム全体で最低 2 本以上を所持していること。チーム全員が所持することが望ましい。
- ・カラビナ：チーム全体で最低 2 個以上のカラビナを所持していること。
- ・ホイッスル：チーム全体で最低 2 個以上のホイッスルを所持していること。チーム全員が所持することが望ましい。
- ・ファーストエイドキット：各ボートに救急用医薬品を所持していることが望ましい。

## 5. 競技規定

#### 【参加資格】

- ・満 18 歳以上の心身ともに健全な男女で、本大会の開催趣旨に賛同できる者であること。
- ・参加者は大会主催者が提示する誓約書に署名できる者でなければならない。
- ・フリップ、落水の可能性が高い河川での競技となるので、十分な自己責任でレースをできる技術（セルフレスキュー）を有していること。
- ・メンバー全員が瀬の中において、フリップリカバリー技術ができることが望ましい。
- ・上記の個人資格を満たすと共に、最低 2 人はラフティング大会経験者または商業ラフティングのリバーガイドを含むこと。
- ・大会主催者、またはその代理人が参加者に上記の資格がないと判断した場合、その責任において該当チームに出場停止を命じることができる。
- ・競技当日に行われる下見ツアーに、出場用ボートで 1 チーム 6 人全員参加すること。危険個所の説明を受け、安全航下ラインを必ず確認すること。なお、大会主催者、または代理人が下見ツアー中に、最低限の技量がないと判断した場合、そのチームに出場停止を命じることができる。
- ・増水や天候などにより、開催当日、コースの難易度が著しく上がった場合、安全を考慮し、大会主催者の判断で、上記の資格を有した参加チームであっても、その技量に応じ、出場の停止を命じることができる。

#### 【出艇方法および注意事項】

- ・1 チーム毎、ゼッケン番号順に 1 分間隔で出艇する。ただし、状況により複数艇同時スタートに変更する場合もある。
- ・スタートは川岸、またはボートなどにラフトボートのスターン（後部）を固定させて、大会主催者、またはその代理人のスタートの合図で出艇する。フライングは 50 秒のペナルティとする。
- ・ゴールはフィニッシュラインをボートの一部が越えた時とする。

- ・ラフトボート上に競技者が1人でも乗っていない状態で、フィニッシュラインを越えた場合、50秒のペナルティーが加算される。
- ・他チームの妨害（パドルなどで相手チームのボートを押すなど）やスポーツマンシップに反する行為をしたと大会主催者が判断した場合、50秒以上のペナルティーが加算される。
- ・競技中に追いつかれたチームは、追走させているチームに合図（かけ声などによる指示）をかけられた場合、ただちにラインを譲らなければならない。
- ・指定する激流ポイントにおいては、安全面を優先すること。強引な追い抜きは妨害行為とみなし50秒以上のペナルティーが加算される。
- ・他チームの妨害（パドルなどで相手チームのボートを押すなど）やスポーツマンシップに反する行為をしたと判断した場合、50秒以上のペナルティーが加算される。
- ・競技コース内でフリップ、落水により危険な状況に陥った場合、大会主催者の判断により、救助に入る。ただし、レスキューを受けたことによるペナルティーは一切生じない。
- ・フリップ・落水などのアクシデントが生じた場合、競技続行可能であればそれを認める。ただし、大会主催者、またはその代理人の判断で競技続行不可能と判断した場合、その時点で失格とすることができる。

#### 【安全要員】

- ・安全な大会運営への協力として、義務ではないが、安全要員の供出が望ましい。参加登録者の有無は問わない。

### 6. 競技判定に関する抗議規定

- ・競技の判定について抗議がある場合は、5,000円の預託金を大会主催者に添えて、抗議することができる。抗議が認められた場合、この預託金は返金されるが、認められない場合は大会主催者が没収する。
- ・抗議はレース結果発表から15分以内にチームキャプテンにおいて、大会主催者に申し立てなければならない。いかなる場合においても、大会主催者のスタッフなどに直接抗議することは認められない。

### 7. 特別減点規定

競技期間中を通して、アンフェアな行為、他者に危険を及ぼす行為、大会およびスタッフの名誉を傷つける行為や言動、地域住民や施設に対する迷惑行為などがあった場合、大会主催者の判断により、減点処置、または大会出場停止、または退場の処置を科すことができる。

### 8. 競技期間中の写真、ビデオの規定

大会主催者、またはその代理人が撮影する競技期間中の写真、ビデオなどを大会の目的のために使用する場合、参加者はその肖像権を放棄すること。